

キャリア教育における多段階相互評価学習の実践と効力感

A Practice of Multistep Peer Assessment in Career Education and Efficacy

桑原 千幸^{*1,2}, 喜多敏博^{*1}, 合田美子^{*1}, 鈴木克明^{*1}
Chiyuki KUWAHARA^{*1,2}, Toshihiro KITA^{*1}, Yoshiko GODA^{*1} and Katsuaki SUZUKI^{*1}

^{*1}熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻
^{*1} Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

^{*2}京都文教短期大学食物栄養学科

^{*2} Department of Food and Nutrition, Kyoto Bunkyo Junior College

Email: ckuwahara@po.kbu.ac.jp

あらまし：主体的にキャリアを形成するためには進路選択自己効力を高めることが必要であるが、その適切な介入方法は明らかではない。本稿では、キャリアに関わる相互評価学習の実践について、形成的評価としての相互評価学習の繰り返し、キャリア態度や学習課題に対する動機づけにどのように影響したかを、学習者への事後アンケートをもとに検討した。その結果、相互評価学習を繰り返した群のほうが1回みの群よりも、キャリアプランの発表と相互評価に対する効力感が高かったことが明らかになった。

キーワード：キャリア教育、効力感、相互評価、Moodle、ARCS モデル

1. はじめに

キャリア教育では、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力の発達に向けて、基礎的能力の一つとして「今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動する」力を育成することが目的である。この主体的に進路を選択する能力は、Bandura の自己効力感をもとに、「進路選択自己効力」として定義されている⁽¹⁾。しかし、進路選択自己効力を高める方策について、どのような課題が学習者の効力感を育成し、進路選択自己効力の向上につながるか、具体的な介入の方策は必ずしも明らかになっていない。

筆者らはこれまで、キャリア教育における学生参加型の取り組みとして、評価能力の向上が自己効力感の育成を導くという仮説のもとに、Moodle のワークショップモジュールを用いた相互評価学習を実践してきた⁽²⁾。その結果、相互評価学習によって学習者がキャリアに関する意識を深めていることが分かった。また、相互評価学習を繰り返すことによって、学習者の 84.6% が評価能力の向上について肯定的に回答した。多段階相互評価に関する先行研究として、藤原らは、評価者が繰り返し評価を行うことで評価に差をつけるようになり、評価結果の補正表示が評価能力の向上に影響すると報告している⁽³⁾。また、布施・岡部は、多段階相互評価によって、他者の多様な意見を踏まえて自分の意見を明確化し、成果物の質も向上させることができるとしている⁽⁴⁾。

本稿では、効力感向上を目的としたキャリアに関わる相互評価学習実践について、形成的評価としての相互評価学習の繰り返し、キャリア態度や、学習課題に対する動機づけにどのように影響したかを、学習者への事後アンケートをもとに報告する。

2. 実践の概要

2.1 授業実践

短期大学1年生4クラス92名を対象としたキャリア教育科目において、個人プレゼンテーションに対する相互評価学習を実施した。発表内容は「私のキャリアプラン」とし、発表時間は1人3分とした。評価の対象として、教員があらかじめ評価者1人につき5人を割り当て、評価入力時間を確保するため対象の発表が連続しないように留意した。相互評価学習システムとしては、Moodle 1.9x のワークショップモジュールを使い、評価者は匿名で評価を行った。評価基準を明確にするため、8つの評価項目について5段階のルーブリックを学習者に提示した。

相互評価学習に関わる授業の流れを表1に示す。13・14回において、受講生が少なかった2クラスは、1回目の発表と相互評価→改善→2回目の発表と相互評価というサイクルで実践を行った。他の2クラスは各自1回の発表と相互評価学習を行った。

表1 授業の流れ

回	内容	詳細
12	キャリアプランの作成	キャリアプランの作成 評価基準の説明と評価の練習
13 14	発表と相互評価	相互評価実施 (発表を聞きながら評価を入力)
15	相互評価の振り返り	自己評価入力(動画を参照) アンケートの実施、尺度による調査

2.2 調査の概要

キャリア態度の変化、相互評価学習による気づき、キャリアプランの発表と相互評価に対する動機づけの把握を目的として、実践後に20項目について5件法でWEBアンケートを実施した。動機づけに関する項目はARCSモデル⁽⁵⁾を参考に作成した。同時に、特性的自己効力感尺度⁽⁶⁾および進路選択自己効力尺度⁽⁷⁾を用いた調査を行った。

3. 結果と考察

実践終了後に行ったアンケートの結果を表2に示す。相互評価を2回繰り返した群(N=39)と、1回のみ行った群(N=51)の平均値の差について、Welchのt検定によって検証した。その結果、「キャリアプランの発表は面白そうだ」「キャリアプランの発表はやればできる」の2項目について、1%水準で有意な差がみられた。また、「キャリアプランの発表はやりがいがある」「キャリアプランの発表は自分のためになる」「キャリアプランの発表をやって良かった」「相互評価はやればできる」「相互評価は自分のためになる」の5項目について、5%水準で有意な差がみられた。キャリアプランの発表と相互評価学習に対して、特に関連性(Relevance)と自信(Confidence)の面で、相互評価学習を繰り返した群の方が高い動機づけを示したと考えられる。

一方で、効力感の観点から考えると、自信(Confidence)に関わる項目で、「やればできる」と比較すると「工夫ができた」「相手のためになる評価ができた」が両群とも低く、有意な差も見られなかった。課題に対する効力感を高めるためには、相互評価にもとづく内容の改善に焦点を当てた授業デザインを検討する必要がある。

進路選択自己効力感と特性的効力感について、繰り返し群と1回群には統計的に有意な差は見られなかった。今回の実践では実施前の調査をおこなっていないため、相互評価学習の実施が、課題に対する効力感と進路選択自己効力の変化に与えた影響を明らかにすることはできなかった。

4. まとめと今後の課題

本稿では、キャリアに関わる相互評価学習の繰り返しによって、キャリアプランの発表と相互評価に対する学習者の効力感が向上したことを報告した。

今後は、より効力感を高める相互評価学習方法を検討すると同時に、実践の前後に調査を実施することによって、学習課題に対する効力感が進路選択自己効力に与える影響を明らかにしていきたい。

参考文献

- (1) Taylor, K. M., & Betz, N. E.: "Applications of self-efficacy theory to the understanding and treatment of career indecision", *Journal of Vocational Behavior*, 22, pp. 63-81 (1983)
- (2) 桑原千幸: "キャリア教育における相互評価学習の実践と効果—評価能力と自己効力感の観点から—", 教育システム情報学会第36回全国大会講演論文集, pp. 166-167 (2011)
- (3) 藤原康宏, 大西仁, 加藤浩: "継続的な学習者間評価を導入した情報教育の実践", *情報処理学会論文誌*, 第49巻, 第10号, pp.3428-3438 (2008)
- (4) 布施泉, 岡部成玄: "多段階相互評価法による学習の実践と効果", *日本教育工学会論文誌*, 第33巻, 第3号, pp.287-298 (2010)
- (5) 鈴木克明: "『魅力ある教材』設計・開発の枠組みについて—ARCS 動機づけモデルを中心に—", *教育メディア研究*, 1(1), pp.50-61 (1995)
- (6) 堀洋道監修, 山本真理子編: "心理測定尺度集I—人間の内面を探る自己・個人内過程—", サイエンス社, pp. 37-42 (2001)
- (7) 浦上昌則: "学生の進路選択に対する自己効力に関する研究", *名古屋大学教育学部紀要教育心理学科*, 42, pp.115-126 (1995)

表2 事後アンケートの結果

カテゴリ	質問項目	繰り返し (N=39)	1回 (N=51)	t検定
キャリア 態度	将来についてよく考えることができたか	4.36	4.29	0.587
	将来のために今後何か行動しようと考えているか	4.23	4.12	0.397
相互評価に よる気づき	他の学生から評価—自分の良いところを見つけることができたか	4.10	3.94	0.226
	他の学生から評価—自分の具体的な改善点に気がついたか	4.44	4.29	0.376
	他の学生を評価—自分の良いところを見つけることができたか	3.59	3.65	0.776
評価の難しさ	他の学生を評価—自分の具体的な改善点に気がついたか	4.26	4.27	0.900
	他の学生の発表を評価することは難しかったか	3.49	3.86	0.083
システム	相互評価システムは使いやすかったか	4.36	4.06	0.060
ARCS	キャリアプランの発表は面白そうだと思う。	4.49	4.02	0.008 **
	キャリアプランの発表はやりがいがある。	4.46	4.14	0.047 *
	キャリアプランの発表は自分のためになりそうだ。	4.74	4.45	0.018 *
	キャリアプランの発表はやればできると思う。	4.59	4.18	0.004 **
	キャリアプランの発表において、自分なりの工夫ができた。	3.90	3.80	0.612
	キャリアプランの発表をやって良かった。	4.59	4.22	0.015 *
	相互評価は面白そうだと思う。	4.10	3.94	0.349
	相互評価はやりがいがある。	4.26	3.98	0.145
	相互評価は自分のためになりそうだ。	4.69	4.39	0.018 *
	相互評価はやればできると思う。	4.41	4.06	0.017 *
	相互評価において、自分なりに相手のためになる評価ができた。	4.10	4.02	0.643
	相互評価をやって良かった。	4.51	4.31	0.130
効力感	進路選択自己効力感	82.54	80.67	0.387
	特性的効力感	68.67	68.61	0.980

(* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$)